

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		多機能型事業所（放課後デイサービス）きらめき読谷		公表日		2025年 4月 1日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		8	2
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		6	4	10名定員あたり7名配置をするが定員割れや下校時間の車両迎えで人員の不足を感じる時には他事業所と合同送迎をしている。	日によって明らかに人手が足りないと感じる場合があり、ミスを誘発しかねない時があり、事前のシミュレーションも課題。	
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		7	3	職員が工夫している。基本的にフロアに段差は無く、トイレには手すり足台を準備している。カーテンでの仕切りもある。	室内にバギーや車椅子の通路を設けているが、マット上で使用するテーブルと椅子は成長に応じ調整できるようにしたい。	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		9	1	毎日の清掃はしっかり行っており、修理が必要な器具等も定期的に確認清掃を行っている。	室内外で使用するバギーキャストの容易な衛生管理方法は課題である。	
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		8	2	現状そういったスペースの確保はされてないと思われるが、手製の仕切りやカーテン等を利用し、擬似的に確保している。	相談室を個室スペースとして利用も可能だが必要に応じいつでも使用できる個別スペースの環境整備は今後の課題である。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		6	4	申し送りノートの記入や業務の振り返りは一部の職員で行われ、翌日の朝礼で口頭で行っている。	時差出勤で朝礼、終礼時に同じ職員不在な場合が多く、日々朝礼と終礼内で業務を振り返り改善する意識と記録習慣が課題。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		9	1	保護者の声をアンケート結果から職員間で把握し、次年度目標や改善できる部分は早期に対応するようにしている。	保護者の意向を把握し各種安全管理マニュアル等はプリントして掲示するなど、目視で確認できる機会をつくる事は課題。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		6	4	事業所会議は月に1回開催されるが、限られた時間内で議論から決議に至らず改善に繋がりにくい現状。	レジュメ作成時に議題を収集し全職員が同等な立場で議論・決議することが課題。ルール遵守の価値感の一致も課題。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6	4	第三者の外部評価はないが法人内で部門長が評価をしている。業務改善に至るまでに時間を要している。実地指導など。	法改正後の実地指導で業務改善を指摘される以前に、業務内容変更を確実に把握して日々の業務を円滑にすすめる必要あり。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		7	3	動画研修が法人内で作成および配信されている。受講時間帯は各職員に委ねられ、業務開始前または隙間時間に受講可能。	各々の職員で受講回数が異なり、業務時間内で受講できる時間の確保と法定研修など受講するテーマの優先順位も課題。
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		10	0	5領域項目を支援プログラム内容に落とし込み、テーマの中で意識して各々個別の課題で優先を決めて支している。	個別支援計画書をベースに児童の課題を事前に確認して実施できることも課題である。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。		10	0	サービス等利用計画書に準じアセスメントおよびモニタリング等で多角的視点から課題を分析して計画書を作成している。	日々本人や保護者の声を傾聴して職員同士で支援内容を吟味するため、ケア会議を定期的に実施出来る様にします。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		9	1	ケア会議に参加できなかった職員からは書面記入や聞き取りをして計画書作成時の参考にしている。	個々の専門的価値観の違いもあるが、意見交換する機会を設け、こどもの最善の利益を考慮しての共通理解を図ります。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。		8	2	計画書を職員間で共有して修正を図っている。計画支援に沿わない場合はお互い声掛けして計画を確認している。	サービス計画書がすぐに閲覧確認できるようファイリングして、疑問や逸脱した支援とならない為に何度も確認します。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		8	2	標準化されたフォーマルアセスメントではないが、行動観察を基本に適応行動に導く支援の程度の達成状況を確認している。	認知発達面やコミュニケーション手段の特性から適応行動の状況を理解して、支援方法の仮説検証を繰り返し継続する。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。		10	0	法改正以前から計画に記載はないが行っている。保護者の就労やレスパイト含めた送迎支援や利用日時の調整実施。地域の学校への下校時迎えや保護者希望によりこれまでの身辺自立支援から学童併用ではあるが移行が出来た児童もいる。	継続して本人やご家族が居住する地域で安心して穏やかな生活が営めるように支援方法を探求します。5領域の本人支援、保護者と兄弟児の家族支援、地域支援・地域連携支援において積極的に頻度を増やせるように計画を立て見える化が課題。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		9	1	現在は児童指導員が主導の計画立案を基に管理者が承認してチームで活動実施する方法を取っている。	活動プログラムの立案や役割分担の内容にチームで意見交換し、職員同意の下に最終決定する段取りに改善する。

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	2	5領域を基本に大項目では個別・アート・運動・音楽・知育・製作・自由活動プログラムで構成されている。	季節の行事や誕生会、避難訓練などに加え図書館や児童館など地域へ出かけ、日々の生活に変化と楽しさを増やしたい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9	1	こどもの個別課題に応じた活動と、こども同士の交流が深まる様な集団活動も取り入れている。	個別では宿題などの認知面の学習課題や、集団では同年齢や異年齢で楽しめるレクリエーションを増やすことも課題にある。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	3	始業時に匡ケアに対応する看護師を決め、食事介助職員の割り振りを行い、業務と支援がスムーズに行えるようにしている。	送迎担当合せて日課担当予定はあるが、当日の急な人員と予定変更に対応できるスキルとコミュニケーション能力は課題。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	3	シフトの段階で時差出勤と退勤となっている為、支援終了時に少数の職員で振り返る事はあるが必須ではない。翌朝実施。	当日の支援終了後に在勤している職員で振り返りを行い、申し送りノートに必須で記入およびサインする体制づくりは課題。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9	1	日々の支援日報は担当を決めて入力し、内容を検証し支援の内容変更につなげている。	記録内容が主観的にならない様、多くの専門職員から多角的及び客観的視点での正確な報告を記録することも課題。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10	0	目標達成度を4段階評価して、現状を職員で話し合い確認して目標を継続か変更のか支援内容の見直しも行っている。	定期モニタリング以前に目標達成や更新がある時には日々の記録と職員間で現状共有して一貫して支援することが課題。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	8	2	基本活動における教育活動において自律や宿題面で学校担任や看護支援員と連携している。創作活動、余暇の提供実施。	地域交流の機会の提供を積極的に行うことが課題。他の社会福祉事業や地域で行われる学習・体験・交流活動に参加したい。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	10	0	個別や集団活動では余暇活動など選択肢を提示や傾聴で自己決定の支援をしている。おやつ選択や食事時間を決める事もある。	体制上、散歩や外遊び、お出かけ支援に制限をする日もある為、個々に対する多様な活動の選択肢を常に増やすことも課題。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9	1	児童発達支援管理責任者が参画している。医療的ケアの必要な児童は看護師が参画している。	支援課題や状況内容によっては児童指導員などの参画も必要に応じて行う。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9	1	医療的ケア連絡会や就学移行支援会議、児発管および支援員向けの研修に参加し連携を図っている。主治医訪問連携も実施。	人員体制上シフト調整にて関係機関との連携体制を整えているが、時に職員の急な休みなどで代替の出席などに課題もある。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9	1	年間計画・行事予定表は保護者から頂き調整。トラブル発生時は学校との電話連絡体制あり。下校迎え時引継ぎ連絡体制あり。	学期末などの下校時間変更は学校公文書を保護者から転送して頂き連絡体制を作っているがミスもあり時季には配慮が課題。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	9	1	関係機関との移行や併用についてのモニタリング会議だけでなく、必要な情報収集および提供をするようにしている。	本土から移住や遠方の場合は相談員を介して情報を得ているが、本人や保護者の最善を考慮し積極的支援で連携したい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	9	1	今年度移行する児童がおり提供予定である。速やかに引継ぎ連携できる様、相談員や保護者とも時季を見て提供する。	移行先との速やかな連携の為に積極的に事業所での様子と支援方法の情報提供を全職員で事前に準備する時間を設けること。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	7	地域の児童発達支援センターは未設置だが、専門的な助言は通所する療育センターでの内容を保護者や直接担当者に確認している。	視覚に障害を持つ児童は盲学校の支援者研修に継続参加できる体制をつくるなど、積極的に専門的助言を受けることは課題。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	8	重症心身障害児や医療的ケア児の体調管理や生活動作の介助が主であり、地域のこどもたちと活動する機会が作れていない。	体調が安定し過ぎやすい時季のイベントや近隣のミュージアムやパリアフリーの公園などに積極的に行き交流したい。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	7	3	法人の児童部門担当者が代表して参加して情報共有することが主であり、積極的に直接参加は日時によっては参加している。	各種協議会等に参加しやすい時間帯を提案するなど、積極的な参加につながるアプローチや意見を伝えることも課題にある。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9	1	連絡帳やLINE以外に送迎時の引継ぎなどでその日の様子を報告し合い、共通理解を図っている。	積極的に家庭や学校の様子を本人と保護者や学校の担任から聞き取り、すり合わせて課題解決につなげる事は課題。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	4	自治体主催のペアレントトレーニングやプログラムは案内があれば情報提供しているが、事業所所在地以外との連携が薄い。	法人内のペアレントプログラムを含め、家庭における両親各々の役割分担からの子育て支援としても情報提供が必要な課題。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10	0	法改正など更新箇所がある時や食事などの自己負担額に変更がある時には丁寧に文書および口頭で説明している。	特に法改正後の5領域の本人支援、家族支援、地域支援、連携支援などは丁寧に詳細を説明しきめ細かな支援につなげたい。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9	1	本人のコミュニケーション能力に応じて意向をくみ取り、サービス利用計画書に準じて個別支援計画作成をしている。	原案作成後に本人と保護者の最善の利益を優先し、意向に相違があれば内容の訂正・変更ができるようにする事は課題。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	10	0	保護者に対面で計画書の説明を行い当日もしくは後日に署名で同意を頂いている。	面談の時間に余裕を持ち丁寧に計画書の説明を行い、保護者のご意見を伝えやすい雰囲気と環境づくりは課題。

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10	0	保護者の子育ての様子を職員間で情報共有し、保護者へ声掛け傾聴している。相談員にも共有して解決の手立てを探っている。	保護者の就労など含めて、お互いに限られた時間に面談を設けるタイミングなど積極的でない部分もあることは改善点。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	5	5	家族交流会で保護者が顔を合わせ、兄弟同士の交流をレクリエーションで図っている。例年は法人で全児童事業所の保護者会を設けているが今年は未実施。	父母会の結成を促すことや活動支援は出来ておらず、家族交流ではゆっくりと時間をとり談話することは難しい。保護者同士の交流の場を設ける事は課題である。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10	0	苦情に関しては個別に解決するため、全体に周知はせず、全職員には速やかに周知して迅速かつ適切な改善を図っている。	全体に関わることは子どもや保護者に速やかに周知できるように努めていく。事業報告はケースにより周知することは改善点。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	10	0	2か月に1回HP内のブログ更新をしていた。活動概要や行事予定など連絡含めて毎月かの活動表としてLINEと紙媒体で発信した。	当日に活動をLINEで発信できるとその日に親子間の話題にもなり、月間行事予定表の活用も聞き取り改善点の確認も課題。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10	0	ブログにアップする顔写真や事業所イベントでのスライド上映においても配慮している。書類管理なども鍵付き書庫に保管。	職員個人のスマホやPCでは、利用者情報や写真の取り扱いは原則しない様、新入社員や定期的に社員に周知確認する。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9	1	障害特性に応じた伝達方法で意思疎通を図っている。保護者へはLINEや連絡帳、直接電話、チラシ配布などを行っている。	相手と確実に意思疎通が出来ているかを常にお互いが確認して、配慮が必要な場合は方法を模索し改善する意識をもちたい。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	7	地域住民を招待していないが、基本的な挨拶から始め、事業内容をお伝えし、ご理解して頂ける様にしている。	感染症の少ない時季や比較的体調管理が安定している季節に地域住民を行事にお招きする企画の立案は課題にしたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	2	各種マニュアルは策定しているが、職員および保護者へ周知することが不十分である。活動の中で訓練を実施している。	事業所会議や日常、活動の中で子どもたちと一緒に緊急時対応や防犯訓練を実施することは課題である。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10	0	シチュエーションの違う避難訓練を行い、都度必要な行動や工夫について記録している。	BCP内容および災害時の避難方法、防災バッグの中身、発電機試運転など具体的に備えていることも周知することは課題。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	9	1	服薬の内容の変更や痙攣等が頻繁に起こるような場合があるため、状況を確認し保護者へ確認報告を行うようにしている。	事前に服薬処方箋のコピーファイリング、てんかん発作の有無・特徴・対応方法を全職員へ周知する事は課題。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	2	現在は食物アレルギーを持つ児童はいないが、必要に応じて医師の指示書のコピーを頂く対応は常に意識している。	初回アセスメントから必ず確認する項目として、アレルギー対応方法も同様に記入欄を設け、抜け目の無い対策は課題。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10	0	車両送迎時にチャイルドシートやベルトの装着、車椅子リフトの操作および固定方法、安全運転確認を互いに確認している。	3列シート車両は置き去り防止ブザーを設置使用し、送迎時の安全運転と駐車できる場所の確認もしている。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10	0	台風時の安全確保や各災害時避難後の連絡の取り方などの取り組み内容は文書やLINEで周知しています。	各種防災マニュアルや訓練内容の方法などは分かりやすく閲覧できる機会を設けて周知に努めます。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9	1	事業所内で情報共有および再発防止策まで記載しファイリングして閲覧できるようにしている。	新入社員に早い時期に情報共有する事項としてシステム化する再発防止の取り組みは課題である。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9	1	管理者向けの虐待防止委員会での研修や全職員向けに動画研修を行っている。	支援中の声掛けや誘導方法が虐待にあたらないかも気にかけて、全職員がお互いに確認し合う雰囲気づくりも必要課題。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	10	0	身体拘束ではない認識で坐位保持椅子の腰ベルトやオーバーテーブル使用で食事介助する時に本人承諾は確認している。	姿勢保持椅子・バギー・車椅子やベッドからの転落防止ベルトや柵は安全上必要なため使用することもあり理解を頂いている。	